平成２８年度　全国学力・学習状況調査の結果と学力向上の取組について

学 力 向 上 支 援 プ ラ ン

清水町教育委員会

全体的な傾向

平成２８年４月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、**中学校の国語Ａ、国語Ｂが全国平均を上回りました。**小学校の国語Ｂ、算数Ｂが全国平均を下回りました。小学校の国語Ａ、算数Ａ、中学校では数学Ａ、数学Ｂについては、全国と同じレベルの結果でした。

学習状況調査では、小学校においては、生活習慣や学習習慣、規範意識が定着しており、言語活動・読解力について高い傾向が見られますが、学習への関心が下回っている状況です。また、中学校においては、生活習慣や学習習慣、規範意識が定着しています。昨年度に比較して自尊感情は向上しておりますが、学習への関心は低下している傾向がうかがえます。

”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が総ぐるみで心をかよわせた感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

学力とは　基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題について調査したものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

主として「知識」に関する問題・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題・・・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

平成２８年度　全国学力・学習状況調査

【ねらい】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

【調査方法】

〇平成２８年度は、対象学年の全児童生徒を対象に調査を行う。
〇清水町は全小・中学校４校が実施した。

【実施日】　平成２８年４月１９日（火）

【学年・教科など】

〇教科に関する調査（国語、算数・数学）、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査。
〇小学校６年生・中学校３年生

小学校６学年　調査結果概要

教科に関する
調査の結果

国語Ａ、算数Ａにおいては、全国平均と同様の平均正答率でした。
国語Ｂ、算数Ｂにおいて、平均正答率が全国平均を下回りました。

◆小学校６学年調査問題の趣旨・内容
- □国語Ａ－目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う。登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることなどから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- □国語Ｂ－インタビューメモをもとに、話し手の意図を捕捉えながら聞いたり、話の展開に沿って質問したりすることなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- □算数Ａ－除法の性質に基づいて、小数の計算を整数の計算に置き換える。単位量当たりの大きさを求める式を書く設問などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- □算数Ｂ－示された説明を解釈し、用いている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する設問などから基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題

○町内小学校6学年の学力の傾向

国語Ａ、算数Ａにおいて、全国とほぼ同レベルの平均正答率であり、基礎的･基本的な知識・技能が身に付いていると言えますが、国語B、算数Bにおいては、全国平均正答率を下回り、基礎・基本を活用することについて課題があると言えます。

○課題と対応

国語Ｂにおいては「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の学習指導要領の領域やそれぞれの能力、問題形式における「選択式」は全国平均を上回っていますが、問題形式の「短答式」の項目での平均正答率が、全国平均を下回っており、質問の意図を捉えて内容を工夫しながら整理することについて課題があると言えます。

今後も、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、家庭で保護者とともに読書をしたり、読んだ内容について、自分の考えを整理して伝え、そのことに対する質問を考えたり、聞き合ったりするなど、日常から実践していくことが大切です。

中学校３学年　調査結果概要

教科に関する
調査の結果

国語Ａ、国語Ｂにおいて、平均正答率が全国平均を上回りました。
数学Ａ、数学Ｂにおいては、全国平均と同様の平均正答率でした。

◆中学校３学年調査問題の趣旨・内容
- □国語Ａ－パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書く。奥付の特徴を説明したものとして適切な者を選択する設問などから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- □国語Ｂ－図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分ったのかを書く設問などから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- □数学Ａ－正の数と負の数とその計算。文字式の計算をする。一元一次方程式を解く。反比例のグラフから式を求める設問などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- □数学Ｂ－２種類の自動車を使用する際の総費用が等しくなる使用年数を求める方法について、式またはグラフを用いて説明する設問などから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することすることができるかどうかをみる問題

○町内中学3年生の学力の傾向

国語Ａ、国語Ｂにおいて、全国の平均正答率を上回り、また、数学Ａ、数学Ｂにおいては、ほぼ同レベルの平均正答率であり、多くの生徒が学習内容を理解していると考えられ、全体的に基礎・基本の定着が図られ、それらを活用することも身に付いていると言えます。

○課題と対応

数学Ａにおける「資料の活用」に関する領域について、全国平均を下回っており、測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解することなど課題が見られました。

また、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を、家族で保障してあげることなど、家族みんなで協力し支援することが大切です。

調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました。

◎小学校

国 語

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかを見る指導の充実

- 習得した漢字を適切に使うために、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようすることが重要です。
- 習得した漢字を読んだり書いたりする機会を、意図的･計画的に設定し、漢字を字形に注意しながら書くことにとどまらず、文や文章の中で適切に使えるようにすることが重要です。
- 語彙を広げるためには、辞書を利用する能力や態度を育て、辞書を利用して調べる習慣を付けることが大切です。
- 指導に当たっては、書いた文章を互いに読み合い、意味を考えながら正しく使用しているかどうかを評価し合う機会を設定したり、同音異義の漢字や「親」のように複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作成し、それぞれの漢字の意味を理解する指導の充実が必要です。

●各家庭での実践

- 保護者も家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して、家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図りましょう。
- 家族で同じ本を読み、書かれている漢字について親子で話し合うなど読書を楽しみ漢字に興味をもつような環境を意図的・計画的に作りましょう。

算 数

◇算数の問題場面で見いだした考えを活用して、条件を変更した場合について発展的に考察できるかどうかをみる指導の充実

- いくつかの事例から見付けたきまりがいつでも成り立つかどうかについて関心をもち、実際に確かめることが大切です。
- 指導に当たっては、例えば、1辺の長さが7cmの正方形の縦の長さを1cm短くし、横の長さを1cm長くした場合の面積が1cm²小さくなることから、増減する数値を2cm、3cmに変えると面積がどう変化するか学習するなどが考えられる。

◇除法の性質の理解の上に立って、小数の除法の計算の仕方を理解できるかどうかをみる指導の充実

- 小数の除法の計算において、除法の性質を理解して、整数の除法の計算と同じように行うことができることが大切です。
- 指導に当たっては、たとえば21÷７の商と210÷70の商が同じになることから、除法の性質が成り立つことを確かめ、それを基に2.1÷0.7と21÷7の商が同じになることを確認する場を設ける指導などが考えられます。

◇図形の構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断することができるかどうかをみる指導の充実

- 辺の長さや角度の大きさなどに着目して見通しをもって図形を構成したり、構成できた根拠を考え、説明できるようにすることが大切です。
- 指導に当たっては、特定の四角形を並べるとどのような形ができるか予想したり、実際に作って確かめる活動が考えられます。
- 四角形のある2辺の間の角度が60度であれば、360÷60＝6を根拠に、実際に並べてできた図形と他の図形を比較しながら、ほかの構成要素にも着目するように問い返し、直角が２つ並ぶから180度になり直線ができることに気付けるようにする指導などが考えられます。

●各家庭での実践

- 家庭の中に色んな物の形について、どんな構成でできているか考えてみましょう。
- 家庭学習の仕方について、家庭と学校の連携により、自分で課題を見付けられるよう内容の充実を図っていきましょう。

◎中学校

国 語

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるかどうかをみる指導の充実

・教科等の学習や読書活動の中で出会った慣用句やことわざなどを取り上げ、それぞれの意味を確認するともに、具体的な使用例を考える学習活動の充実が必要です。

◇紙全体に対して、文字の大きさや、配列に注意して調和的に書くことがができるかどうかをみる指導の充実

・指導に当たっては、書写の学習において、書いたものについて生徒が互いに評価し合う場面を設けることが考えられます。
・社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて、適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させることが大切です。

●各家庭での実践
・幅広くいろんなジャンルの本を読む習慣を付け、家族と本に書かれていた内容や使われている言葉について話し合うことなど、日常から実践していきましょう。
・学んだことを身に付けていくためには「授業に集中すること」と「家庭学習」が重要です。その日に学習した漢字や語句などを確認したり、分からないことはそのままにしないで、家族が教えるなど家庭学習がしやすい雰囲気を作りましょう。

数 学

◇三角形の合同条件を理解しているかどうかを見る指導の充実

・2つの三角形についてどのような条件があれば合同となるのかを考察する場面を設定し、辺長や角度に着目して合同条件を理解できるようにする指導の充実が必要です。
・「１つの角度と1つの辺長」「2つの辺長」「1つの辺長と2つの角度」などいくつかの例の中でどの要件が揃うと合同な三角形を書くことができるか確認する活動が考えられます。

◇測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解できているかどうかをみる指導の充実

・測定値には誤差があり、真の値の近似値であることを、実感を伴って理解できるようにする場面を設定し、近似値と誤差の意味を理解できるようにする指導の充実が必要です。

◇与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるかどうかをみる指導の充実

・実生活の場面で問題を解決する活動を取り入れ、与えられた情報から、目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象を数学的に表現し処理できるようにする指導の充実が必要です。
・何が定数で、何が変数かを確認する場面を設定する指導の充実が必要です。

◇資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる指導の充実

・代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが必要です。
・指導に当たっては、平均値が代表値としてふさわしいかどうかを資料の分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられます。
・資料の数値等の分布の特徴を捉えて説明すべき事柄とその根拠を明確にして、説明できるようにすることが大切です。その際、判断の理由を最頻値など代表値を用いて、簡潔に分かりやすく説明できるようにする指導の工夫が必要です。

●各家庭での実践
・授業で学習した内容を、復習をし確認するとともに、予習を習慣付けしていくことで授業の内容を理解することが容易になります。
・日常生活の中で、ある問題の解決について話題にし、様々な情報からどんな情報が有効なのかお互いの考えを話し合うことなどを実践しましょう。

質問紙調査の結果

小学生は生活習慣、学習習慣、規範意識など全国基準を上回っているが昨年度に比較して低下傾向が見られ、維持、改善に取り組む必要があります。
中学生は、学習習慣、生活習慣、自尊感情が全国基準を上回っているが、昨年度と比較して各教科への関心が低下傾向があり留意する必要があります。

◇質問紙調査の趣旨・内容
学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力とその相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する関心・意欲・態度②学習状況③学習習慣④学校生活等⑤基本的生活習慣・自尊意識・規範意識などの項目について調査が行われました。

町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向
小学校６学年児童については、全国基準と比べて、復習や宿題をしている、学級のきまりを友達同士で決めている、学校のきまりを守ることなどについて高い傾向にありました。家庭での学習時間、読書時間については全国に比べ少ない状況が見られました。
中学校３学年生徒については、全国基準と比べて、将来の夢や希望をもっていること、学級のきまりを友達同士で決めている、学校のきまりを守ることなどについて高い傾向にありました。読書時間、家庭学習の時間は少ない傾向にあります。学習に対する関心については、国語・数学ともに関心等は高く、授業の内容についても理解ができているという状況でした。

改善の方向性

○「習得」「活用」「探求」の学習プロセスを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実しましょう。

◇知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう。
□基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりとる学習指導の工夫改善を図る。
□一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実する。

◇思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探求する活動の実践に努めましょう。
□観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実し、教科等において記録、要約、説明などの学習に取り組む。
□総合的な学習の時間における教科等を横断した探求活動を充実する。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。
□児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
□地域の人材の活用も含め、多用な指導者によるチーム・ティーチングや少人数指導、習熟の程度に応じた指導等の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実しましょう。
□自宅での勉強の前に１～２分でできる簡単なプリントを繰り返し行うなど、学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。
□勉強する時間を決めて表示するなど、子ども自身が時間を意識した生生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。
□全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。
□毎月１９日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

研究所との連携

◎２７年度の教研式標準学力検査ＣＲＴによる子どもの学力（小３・小５・中２）の結果から十勝の子どもたちには次の傾向が見られました。
・小学校３学年、５学年では、５学年の国語以外が全国を下回りました。
・中学校２学年では、全教科で全国を上回りました。
◎本町の子どもたちについては、次の傾向が見られました。
・小学校３学年では、国語、算数が全国を上回り、理科は下回りました。
・小学校５学年、中学校２学年では、全教科で全国を上回りました。

清水町教育研究所では、こうした調査の結果を受けて、十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいきます。各学校においては、研究所の研究成果を参考にするとともに、各学校において常日頃より実践研究に取り組んでいただくなど、連携を図りながら、町内の児童生徒の確かな学力の育成に努めていきます。